

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	「満月抄」：短歌・俳句
Author(s)	木庭，立夫
Citation	龍南， 2 5 2： 5 5 - 5 6
Issue date	1942-12-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/8525
Right	

「虚

空」

文一ノ四

室岡美和

草ののびた電車みち、でんしやゆれてくる
泥の上歩く魚もゐて堀割のぬるい日ざし
ふぢ棚すこし風がある、飛行機のばぐ音
白襟の黒い瞳と今晴れた空の青さです

湯つぽ誰もゐない青空見えて拭く

白いふすま、山の湯しんかんと更けた

スツキリと木屋の香りして部屋月になつた

穂すゝき白びかりして阿蘇全山秋

ホツと陽に目をつむる、みづをとやんでゐる

「満月抄」

文一ノ四

木庭立矢

まつしろなページがいちまい、なにか不安な

月光、まつしろな本

つづらをるやまぢあせとほこりと

とにかくしけんすんで白雲見てゐるつかれ

しけん上氣した目に松の木にしぐれてゐる

そろそろ寒くて窓をしめよう阿蘇まつくろに横たはり

いつとなく日向ぼこする今日となりぬ

古寺の静けさ夏や蓮の花

名月をうつせる池や水馬ミヅウマシ

硝子戸にちぎれ雲飛ぶ野分かな

ふるさとの香りなつかし青蜜柑

理二ノ三

甲

斐

幹